

創刊のことば

1990年4月、奈良県立短期大学を母体として創設された奈良県立商科大学は、日本で初めての夜間課程のみの公立大学であります。

この大学は働きながら学に志す勤労青年や、生涯学習を目指して大学の門を叩こうとする多様な社会人に広く門戸を開き、これを通じて地域社会に有為の人材を供給してその活性化に資するためにつくられました。

それと同時にそれは、その持てるすべての教育・研究機能をあげて、地域の産業、文化の振興と住民生活の向上に貢献するという使命をもち、この意味からも開かれた大学でなければなりません。

このような大学の設立は、日本の教育制度のあり方についての一つの大きな実験であると私たちは自負しております。そしてそれを成功的に展開させていくためには、質的に高度でしかも従来のカラを破った新しいタイプの研究者・教育者の成長と集積がぜひとも必要であると考えます。

この『研究季報』はそのための各自の研鑽の成果の公表を通じて、学界その他からのきびしい批判をいただく場であります。私たちはわずか14名で年4回の刊行を堅持し続けてきた短期大学時代のよき伝統を継承し、より充実したスタッフをもって新しい飛躍のために努力したいと決意しております。

本号は開学を記念し、在籍者はもとより、来年度以降の就任予定者をふくめて、専任教員のほぼ全員が執筆いたしました。いわば新しい大学の研究側面の自己紹介としての意味をもつものであります。

ご高覧の上、今後のご指導、ご鞭撻を心からお願い申し上げます。

1990年12月

奈良県立商科大学長

三宅 順一郎